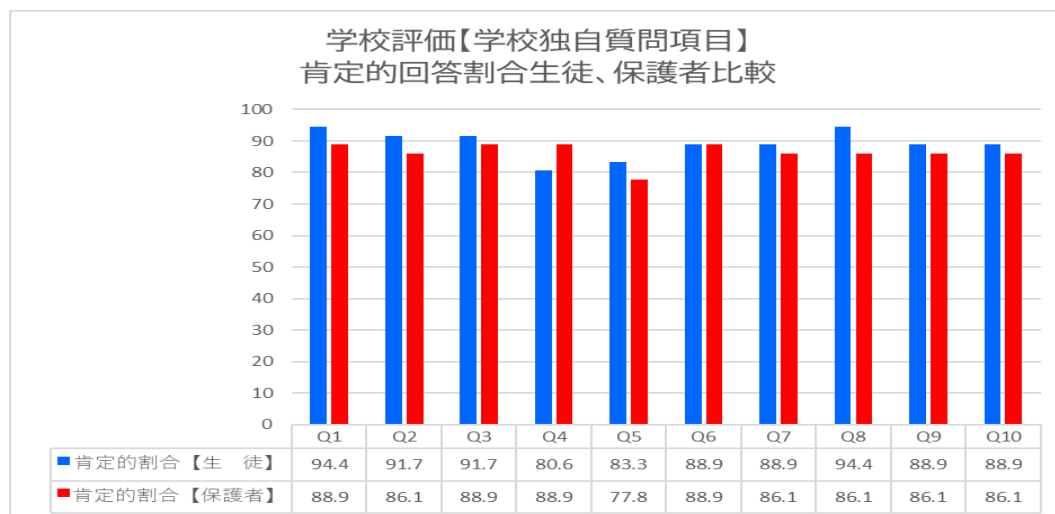


◆生徒と保護者の乖離が大きい（差が10%以上）項目

- Q5 「教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている」(生徒:97.2% 保護者:83.3%)
- Q9 「学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる」(生徒:86.1% 保護者:75.0%)
- Q10 「災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている」(生徒:91.7% 保護者:80.0%)
- Q11 「学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている」(生徒:94.4% 保護者:80.6%)
- Q13 「学校として、いじめの問題に対する取組方針が保護者と共有されている」(生徒:91.7% 保護者:63.9%)
- Q14 「お子様の学校生活は充実している」(生徒:91.7% 保護者:72.2%)



◆生徒と保護者の乖離が大きい（差が10%以上）項目はない

【分析】

○生徒の評価は「県指定」と「学校独自」のどちらも高い。一方、保護者の評価は「県指定」が「学校独自」より低い評価となっており、上記6項目での乖離が大きい。

○乖離が大きい6項目の内容から、「心のサポート」、「地域との関わり」、「防災」、「情報発信」、「いじめ」、「学校生活の充実度」について、一定数の保護者は満足を得ていないことがわかる。

このことから、次の点が飯野川校の課題と推測される。

★「学校の教育活動について、保護者も含めた校外への発信に課題がある」

★「家庭での生徒と保護者の会話不足。学校からの配布物等が保護者に確実に届いていない」

これは特に県指定のQ13及びQ14の結果が大きく物語っていると考える。

今後の方策としては、「学校ホームページ」や「eメッセージ（メール配信システム）」の利活用、学校公開への保護者参加の推進などを行い、学校の取り組みを校外へ自信を持って配信していく姿勢を作る必要があると考える。